



歌の国 スウェーデン

三宅 巖

皆さんは北欧の作曲家と言われるどの作曲家を思い浮かべますか。フィンランドのシベリウス、ノルウェーのグリーグまではすぐに名前があがると思います。では、スウェーデンの作曲家と言われたらどうでしょう。誰も思い浮かばない方が意外に多いのではないのでしょうか。そこで今回紹介するのは、

初めて日本語で書かれたスウェーデンのクラシック音楽ガイドである『歌の国スウェーデン』です。この本の著者の戸羽晟（とばあきら）さんは1994年に財団法人スウェーデン交流センター事務局長に就任した際に、音楽ファンのクラシック音楽はレコードの

リリースがすくないのだろう」と疑問を持ち、以後スウェーデンのクラシック音楽の収集に努めた結果、コレクションは400枚を超えるようになったそうです。そしてスウェーデンのクラシック音楽について日本人に紹介するためにとまとめたのがこの本です。

この本の構成は二部構成で、第一部で民謡の宝庫であり、歴史に名を残す偉大な歌手を生み出した「歌の国」スウェーデン音楽の魅力と、スウェーデン音楽の流れをおおまかに述べて、第二部で作曲家の紹介・作品解説・CDの紹介を行っています（ちなみに、本書に出てくる「ニューミュージック」は「アヴァンギャルドの音楽」のことです）のでお間違いないように。作曲家は1950年以前に生まれた方を対象として、日本語カタカナ表記の五十音順に配列されています。作曲家の経歴、代表作の説明の後に、CDのリストが掲載されています。気に入った作曲家のCDを図書館のOPACで検索してみると良いでしょう。巻末には付録として、この本に関連する人

物紹介があります。また、CDジャケットやスウェーデン各所の写真が随所に掲載されています。

大変、読みやすい良い本なのですが、不満な点もあります。それは作曲家名の索引がないことです。たまたま聴いたCDの作曲家について知りたくてこの本を読む場合、他の資料で日本語読みを調べた上で探す必要があります。わからない場合は第二部全体を頭から見ていくことになり、大変不便だと思えます。目次にも作曲家ごとの頁数表示がないので、作曲家名の索引（和文・欧文両方）があったら良かったと思います。

多少の問題がありますが、スウェーデンのクラシック音楽の紹介書としては最適だと思います。スウェーデンの音楽に関心のある方も、そうではない方もぜひ一読してはいかがでしょうか。

戸羽晟『歌の国スウェーデン：クラシック音楽ガイド』新評論、2008（請求記号●J13-946他）